

社会人クラブラグビー 「桐生ラガーズ」快進撃

東日本大会に初出場

上位進出へ23日初戦

桐生市のラグビー社会人クラブチーム「桐生ラガーズ」(飯尾泰貴代表、山口浩和主将、約40人)が、23日に開幕する「東日本クラブフットナメント大会」の本選に初出場する。有望な若手の加入で急成長中の同チームは、県リーグ1部復帰2年目ながら同プレーオフと北関東予選を初制覇する快進撃。東日本の強豪がそろった本選でも上位進出に期待がかかる。

若手台頭で選手層厚く

桐生ラガーズは1974年創部。県の下部リーグが長かったが、2009年度に1部リーグに昇格すると、翌10年度は同リーグ2位に躍進。今年6月のプレーオフを制して初の県代表となった。

さらに9、10月の北関東予選では前年代表の強豪クラブを初戦で破り初出場初優勝。東日本の7チーム(首都圏2、東北2、北海道・北関東・甲信越各1)で頂点を争う。

東日本クラブフットナメントに北関東代表として初出場する桐生ラガーズのメンバー

本選の出場権をつかんだ。快進撃の主な理由は若手の台頭だ。地元ラグビースクールOBや県内高校OBら、高校や大学などで活躍した若手実力派が相次いで入部。経験豊富なベテランと融合して選手層を厚くしている。

象徴的なのが司令塔のスタンドオフを務める山上達也選手(24)。樹徳高では母校を全国大会初出場に導き、立正大では関東大学リーグ1部(当時)で活躍した。高校、大学時代のチームメイトも多く、チーム力を大きく押し上げている。

【群馬リーグ】

(昨年9～12月)

- 33—0 ラクーンドックス
- 26—11 群馬銀行
- 48—29 レッドパンクス
- 不戦勝 ビーバップ
- 19—25 ダンボ

【同プレーオフ】

(今年6月)

- 34—14 ラクーンドックス
- 35—33 ダンボ

【北関東予選】

(今年9、10月)

- 36—17 ツクバリアンズ(茨城)
- 37—10 白楊クラブ(栃木)

優勝チームは例年、日本選手権で大学日本一チームと対戦する。